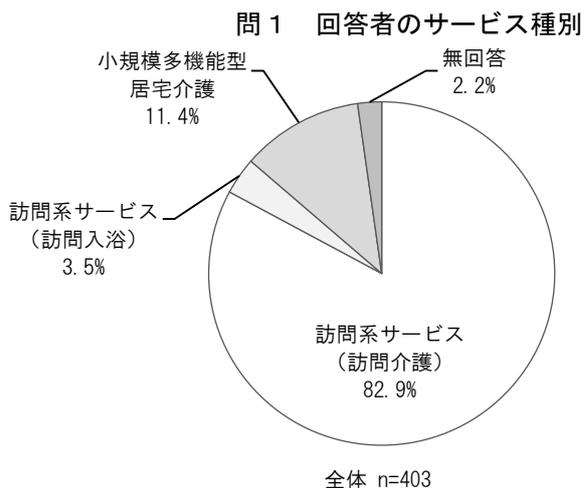


第5章 介護人材実態調査結果

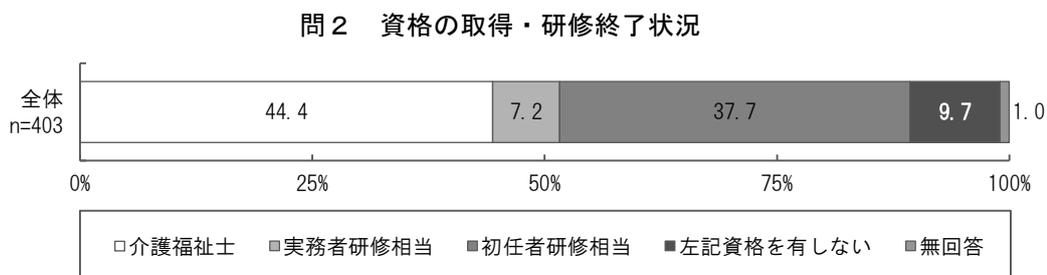
1 介護職員の状況について

(1) 回答者のサービス種別

○回答者のサービス種別をみると、「訪問系サービス（訪問介護）」（82.9%）が最も高く、次いで「小規模多機能型居宅介護」（11.4%）となっています。



○職員の資格保有状況をみると、介護福祉士が占める割合は、44.4%となっています。また、資格を有していない職員の割合は、9.7%となっています。



※判例は下記選択肢を省略

介護福祉士：介護福祉士（認定介護福祉士含む）

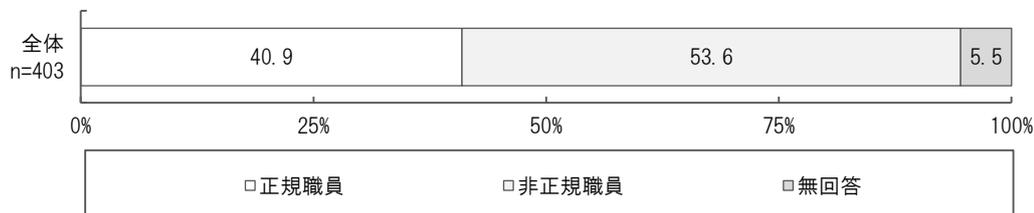
実務者研修相当：介護職員実務者研修修了、または（旧）介護職員基礎研修修了、または（旧）ヘルパー1級

初任者研修相当：介護職員初任者研修修了、または（旧）ヘルパー2級

(2) 介護職員の属性

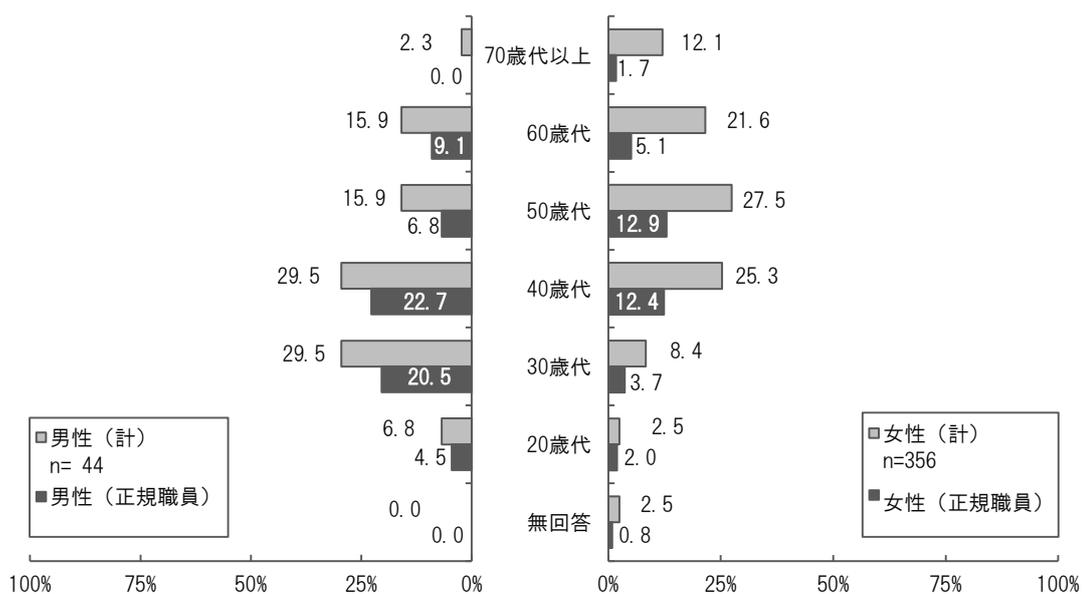
○職員の雇用形態をみると、正規職員と非正規職員の比率はおよそ4：5となっており、正規職員の割合がやや低い状況です。

問3.① 雇用形態



○性別・年齢階級別でみると、男性は30歳代、40歳代で正規職員の割合が高い一方、女性では40歳代、50歳代で正規職員の割合が高くなっています。

性別・年齢別の雇用形態の構成比

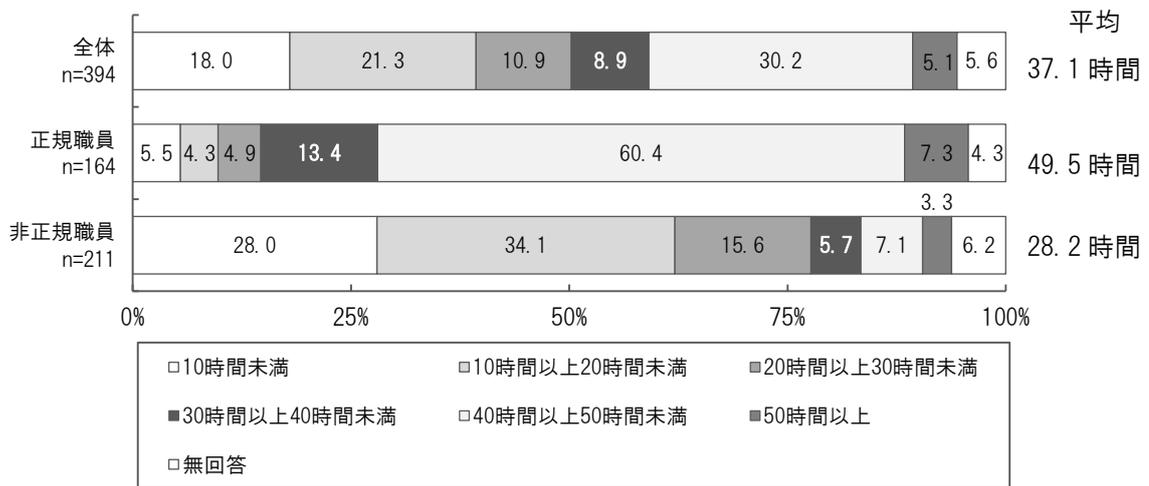


(3) 1週間の勤務時間

○過去1週間の勤務時間をみると、正規職員では「40時間以上50時間未満」(60.4%)が最も高く、非正規職員では「10時間以上20時間未満」(34.1%)が最も高くなっています。

○正規職員の平均勤務時間は49.5時間、非正規職員の平均勤務時間は28.2時間となっています。

問3.④ 過去1週間の勤務時間（職員1人あたり）

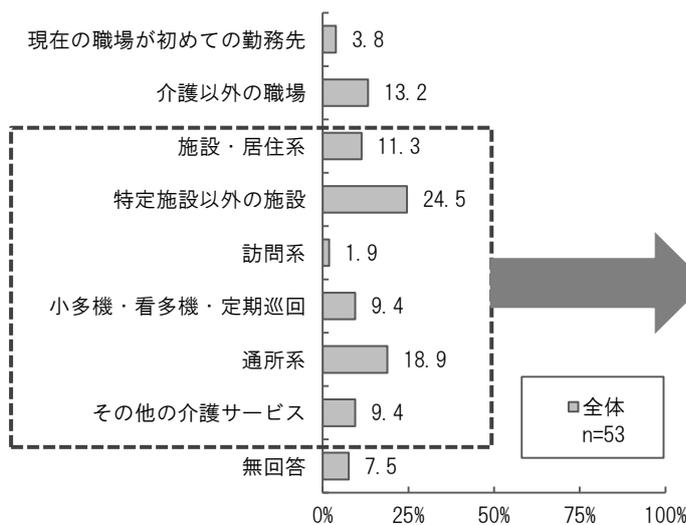


(4) 過去1年間の介護職員の職場の変化

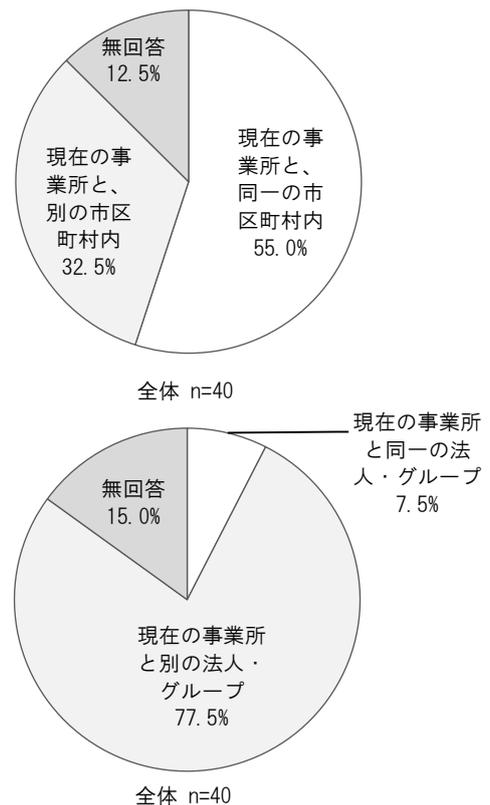
○勤務年数が1年未満の職員の直前の職場をみると、「特定施設以外の施設」(24.5%)が最も多く、次いで「通所系」(18.9%)、「介護以外の職場」(13.2%)となっています。

○介護関係の前職の勤務場所、法人は以下のとおりです。

問4 勤務1年未満の職員の直前の職場



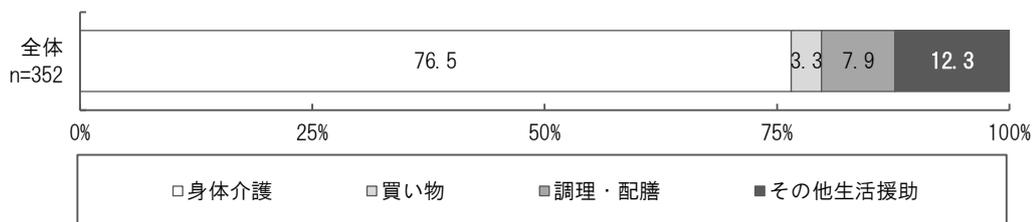
問5 勤務場所・法人・グループ



(5) サービス提供時間の内容別内訳

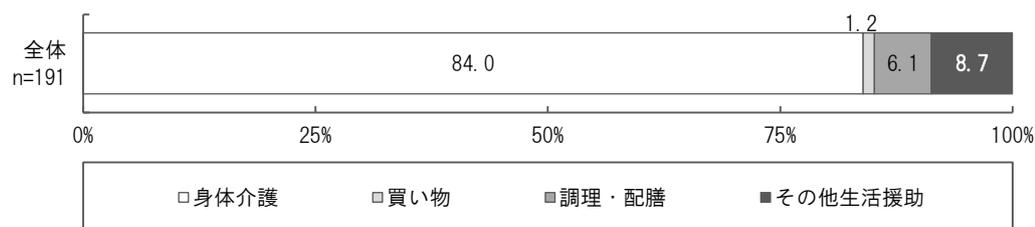
○介護給付における平日のサービス提供時間の内訳をみると、「身体介護」(76.5%)の割合が最も高く、次いで「その他生活援助」(12.3%)、「調理・配膳」(7.9%)の順となっています。

問6 サービス提供時間の内訳 (介護給付・平日)



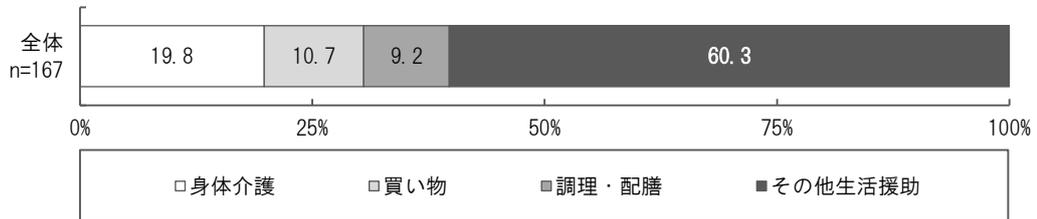
○介護給付における土・日曜日のサービス提供時間の内訳をみると、「身体介護」(84.0%)の割合が最も高く、次いで「その他生活援助」(8.7%)、「調理・配膳」(6.1%)の順となっています。

問6 サービス提供時間の内訳 (介護給付・土日)



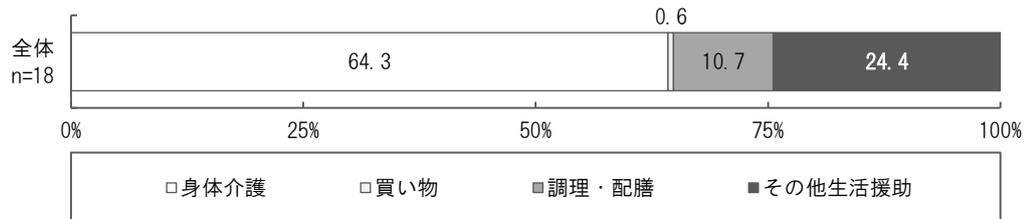
○介護予防給付における平日のサービス提供時間の内訳をみると、「その他生活援助」（60.3％）の割合が最も高く、次いで「身体介護」（19.8％）、「買い物」（10.7％）の順となっています。

問6 サービス提供時間の内訳（介護予防給付・平日）



○介護予防給付における土・日曜日のサービス提供時間の内訳をみると、全体では「身体介護」（64.3％）の割合が最も高く、次いで「その他生活援助」（24.4％）、「調理・配膳」（10.7％）の順となっています。

問6 サービス提供時間の内訳（介護予防給付・土日）



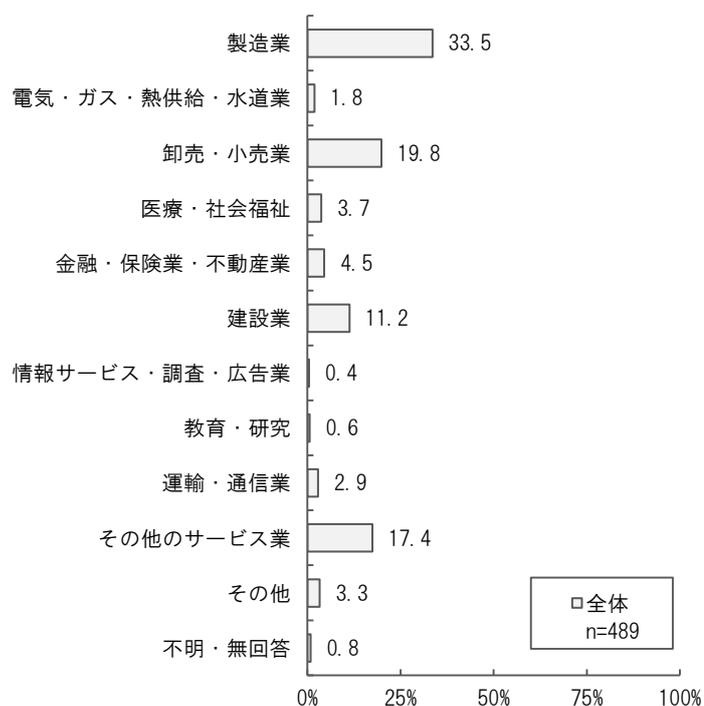
第6章 介護休業制度等実態調査結果

(調査委託先 株式会社広瀬企画)

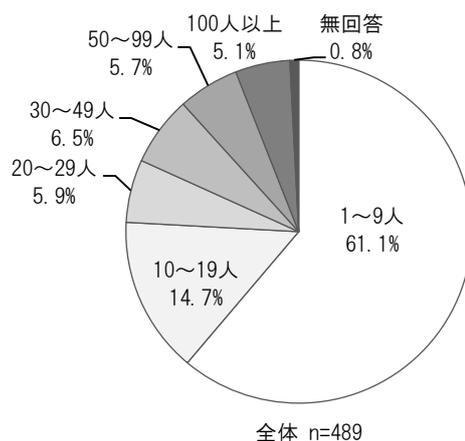
1 企業の業種・従業員数について

○企業の業種、(およそ)従業員数は以下のとおりとなっています。

問1 企業の主な事業内容



問2 従業員数



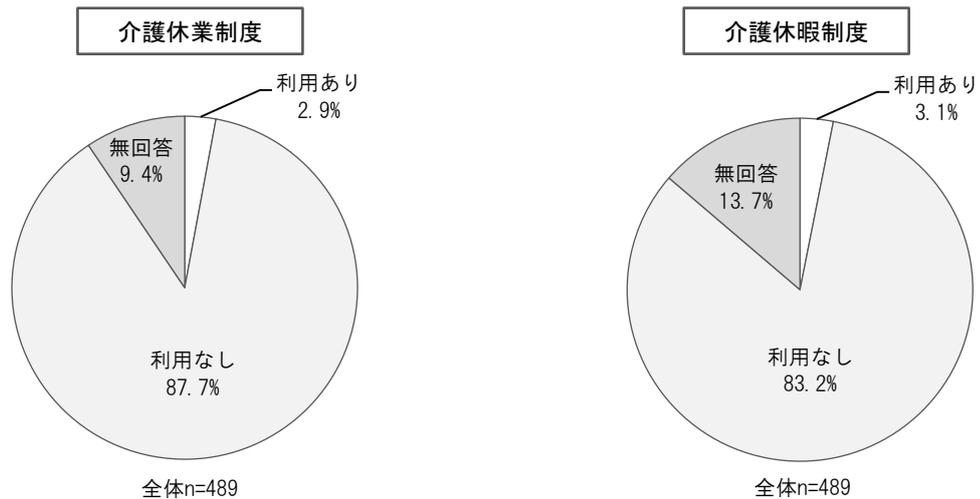
全体 n=489

2 企業における介護休業制度等の状況

(1) 介護休業制度・介護休暇制度の利用状況

○介護休業制度および介護休暇制度の利用状況をみると、「利用あり」の事業所は『介護休業制度』では2.9%、『介護休暇制度』では3.1%ととなり、いずれの制度も大半の事業所が「利用なし」となっています。

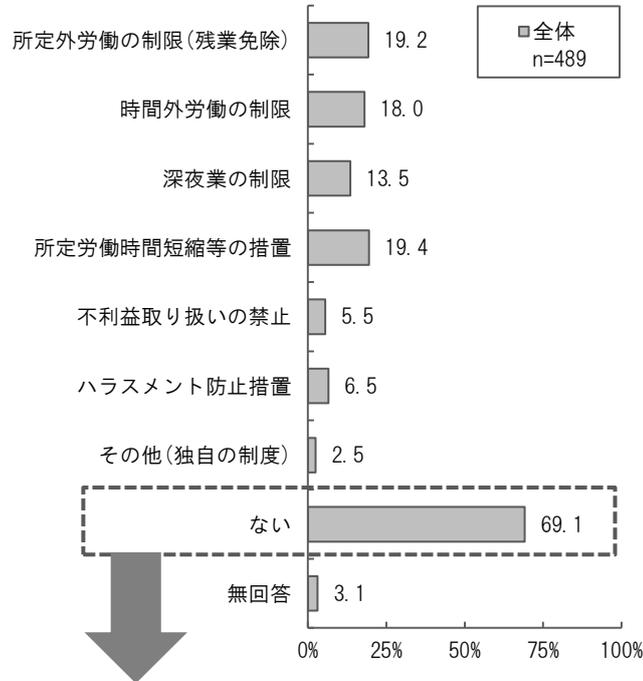
問3 平成30年度中の介護休業制度・介護休暇制度の利用状況



(2) 企業での対策や制度について

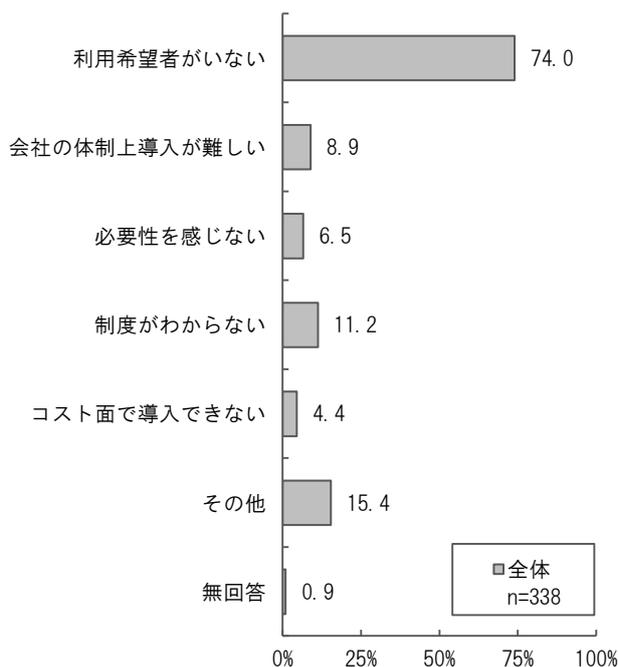
○要介護状態にある対象家族の介護を行う従業員への対策や制度の内容については、「ない」(69.1%)と回答した事業所の割合が最も高くなっています。

問4 要介護状態にある対象家族の介護を行う従業員への対策や制度の内容

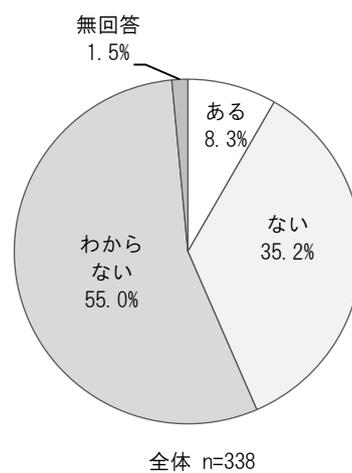


○導入している対策や制度が「ない」と回答した事業所において、対策や制度等を導入していない理由としては「利用希望者がいない」(74.0%)が最も高くなっています。さらに、今後の対策や制度の導入の有無をみると、8.3%の事業所が「ある」と回答しています。

問5 対策や制度等を導入していない理由



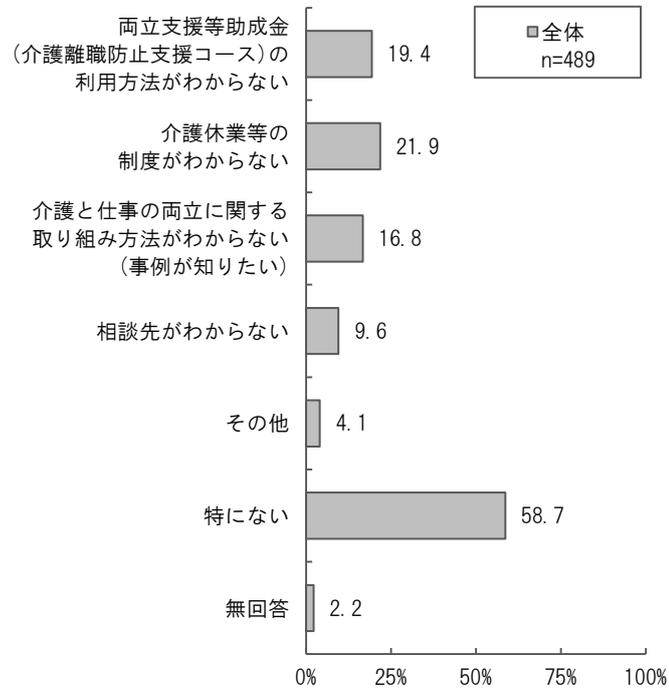
問6 対策や制度の導入予定の有無



(3) 介護休業制度等を導入するにあたっての困りごと

○介護休業制度等を導入するにあたっての困りごととしては、「介護休業等の制度がわからない」(21.9%)、「両立支援等助成金(介護離職防止支援コース)の利用方法がわからない」(19.4%)などがあがっています。

問7 介護休業制度等を導入するにあたっての困りごと



資料編

1 電算処理の判定条件等

○集計等の電算処理にあたっては、以下の判定条件に基づいて行いました。

■ 4つの高齢者像判定条件

項目	判定条件
健康的な高齢者	
元気高齢者 ※要支援・要介護認定者を除く65歳以上の高齢者のうち、介護予防事業対象者、生活支援事業対象者に該当していない、健康で元気に暮らしている65～74歳（前期高齢者）の方。	以下の条件をすべて満たす方。 ●要支援・要介護認定者以外 ●介護予防事業対象者以外 ●生活支援事業対象者以外 ●74歳以下 ●問8-（1）で「1. とてもよい」に回答
一般高齢者（旧一次予防事業対象者） ※要支援・要介護認定者を除く65歳以上の高齢者のうち、元気高齢者、介護予防事業対象者、生活支援事業対象者に該当していない方。	以下の条件をすべて満たす方。 ●要支援・要介護認定者以外 ●介護予防事業対象者以外 ●生活支援事業対象者以外 ●元気高齢者以外
介護予防事業対象者	以下の条件をすべて満たす方。 ●「虚弱リスク」「運動器の機能低下リスク」「低栄養リスク」「口腔機能低下リスク」「閉じこもりリスク」「物忘れリスク」及び「うつ傾向リスク」の7つのリスク判定のうちいずれかに該当
生活支援事業対象者 ※下記①②に該当する方々 ①要支援認定者 ②介護予防事業対象者及び、要支援・要介護認定者を除く65歳以上の高齢者で「1人暮らし世帯」または「(65歳以上)夫婦2人世帯」となる方。	以下の①②の条件を満たす方。 ①要支援認定者 or ②介護予防事業対象者 且つ ●問1-（1）で、「1. 1人暮らし」または「2. 夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」に回答

※介護予防事業対象者と生活支援事業対象者には該当者の重複があります。

※『虚弱な高齢者』とは、『要支援認定者』と一般高齢者のうち「運動器の機能低下リスク」「低栄養リスク」「口腔機能低下リスク」「閉じこもりリスク」「物忘れリスク」「うつ傾向リスク」及び「虚弱リスク」の7つのリスク判定のいずれかに該当し「介護予防事業対象者」と判定された高齢者の方を示します。なお、「虚弱リスク」とは定義が異なります（165頁参照）。

■各リスク者の判定条件

①虚弱リスク判定・評価

問番号	項目	選択肢
問2-(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」: 1点
問2-(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	
問2-(3)	15分位続けて歩いていますか	
問2-(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 または 「2. 1度ある」: 1点
問2-(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 または「2. やや不安である」: 1点
問3-(3)	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	「1. とても減っている」 または「2. 減っている」: 1点
問3-(4)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」または 「2. 週1回」: 1点
問4-(1)	身長() cm 体重() kg	BMI<18.5: 1点
問4-(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」: 1点
問4-(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	
問4-(4)	口の渇きが気になりますか	「1. はい」: 1点
問4-(8)	6か月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	
問5-(1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」: 1点
問5-(2)	バスや電車を使って1人で外出していますか (自家用車でも可)	「3. できない」: 1点
問5-(3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	「3. できない」: 1点
問5-(6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	
問5-(7)	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	「2. いいえ」: 1点
問5-(8)	今日が何月何日かわからない時がありますか	「1. はい」: 1点
問5-(13)	友人の家を訪ねていますか	「2. いいえ」: 1点
問5-(14)	家族や友人の相談にのっていますか	

※10点以上：該当 0点以上9点以下：非該当

※0点のうち判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

②運動器の機能低下リスクの判定・評価

問番号	項目	選択肢
問2-(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	「3. できない」：1点
問2-(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	
問2-(3)	15分位続けて歩いていますか	
問2-(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」 または 「2. 1度ある」：1点
問2-(5)	転倒に対する不安は大きいですか	「1. とても不安である」 または「2. やや不安である」：1点

※3点以上：該当 0点以上2点以下：非該当

※0点のうち判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

③口腔機能低下リスクの判定・評価

問番号	項目	選択肢
問4-(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	「1. はい」：1点
問4-(3)	お茶や汁物等でむせることがありますか	
問4-(4)	口の渇きが気になりますか	

※2点以上：該当 0点以上1点以下：非該当

※0点のうち判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

④低栄養リスクの判定・評価

問番号	項目	選択肢
問4-(1)	身長() cm 体重() kg	BMI<18.5：1点
問4-(8)	6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか	「1. はい」：1点

※2点：該当 0点以上1点以下：非該当

※0点のうち判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

⑤閉じこもりリスクの判定・評価

問番号	項目	選択肢
問3-(4)	週に1回以上は外出していますか	「1. ほとんど外出しない」または 「2. 週1回」：1点

※1点：該当 0点：非該当

※判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

⑥物忘れリスクの判定・評価

問番号	項目	選択肢
問5-(1)	物忘れが多いと感じますか	「1. はい」：1点

※1点：該当 0点：非該当

※判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

⑦うつ傾向リスクの判定・評価

問番号	項目	選択肢
問8-(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	「1. はい」：1点
問8-(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	

※1点以上：該当 0点：非該当

※0点のうち判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

⑧転倒リスク判定・評価

問番号	項目	判定条件
問2-(4)	過去1年間に転んだ経験がありますか	「1. 何度もある」または 「2. 1度ある」：1点

※1点以上：該当 0点：非該当

※0点のうち判定設問に無回答があった場合は、「判定できず」とします。

■老研式活動能力指標の判定条件

① IADL（手段的自立度）^{注）}低下の判定・評価 … 老研指標

問番号	項目	選択肢
問5-(2)	バスや電車を使って1人で外出していますか（自家用車可）	「1. できるし、している」 または 「2. できるけどしていない」：1点
問5-(3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか	
問5-(4)	自分で食事の用意をしていますか	
問5-(5)	自分で請求書の支払いをしていますか	
問5-(6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか	

※5点：問題なし 4点：やや低い 0～3点：低い

※判定条件の設問に無回答が2項目以上あった場合は、「判定できず」とします。

注）：IADLとは、「Instrumental Activity of Daily Living」の略で、手段的日常生活動作のことを指します。例えば電話の使い方、買い物、食事の準備、家事、洗濯、移送の形式、自分の服薬管理、財産取り扱い能力、の8項目の能力を指標とし、高次の生活機能の水準を測定するものとされています。

② 知的能動性低下の判定・評価 … 老研指標

問番号	項目	選択肢
問5-(9)	年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	「1. はい」：1点
問5-(10)	新聞を読んでいますか	
問5-(11)	本や雑誌を読んでいますか	
問5-(12)	健康についての記事や番組に関心がありますか	

※4点：問題なし 3点：やや低い 0～2点：低い

※判定条件の設問に無回答が2項目以上あった場合は、「判定できず」とします。

③ 社会的役割低下の判定・評価 … 老研指標

問番号	項目	選択肢
問5-(13)	友人の家を訪ねていますか	「1. はい」：1点
問5-(14)	家族や友人の相談にのっていますか	
問5-(15)	病人を見舞うことができますか	
問5-(16)	若い人に自分から話しかけることがありますか	

※4点：問題なし 3点：やや低い 0～2点：低い

※判定条件の設問に無回答が2項目以上あった場合は、「判定できず」とします。

④ 老研指標総合評価

※ IADL（手段的自立度）低下、知的能動性低下、社会的役割低下の合計点

11点以上：問題なし 9～10点：やや低い 8点以下：低い

※判定条件の設問に無回答が5項目以上あった場合は、「判定できず」とします。

■地域での活動判定条件

項目(選択肢)		判定条件
地域活動への参加意向	1. 是非参加したい	・問6-(1)『地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか』の設問で左記の選択肢「1.」「2.」「4.」と回答された方
	2. 参加してもよい	
	3. 参加したくない	
	4. 既に参加している	

項目(選択肢)		判定条件
地域活動(企画・運営)への参加意向	1. 是非参加したい	・問6-(2)『地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に規格・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか』の設問で左記の選択肢「1.」「2.」「4.」と回答された方
	2. 参加してもよい	
	3. 参加したくない	
	4. 既に参加している	

項目(選択肢)		判定条件
友人と交流する頻度が低い者	1. 毎日	・問7-(6)『友人・知人と会う頻度はどれくらいですか』の設問で左記の選択肢「5.」と回答された方
	2. 週に数回	
	3. 月に数回	
	4. 年に数回	
	5. ほとんどない	

項目(選択肢)		判定条件
孤食者	1. 毎日ある	・問4-(9)『どなたかと食事をともしる機会がありますか』の設問で左記の選択肢「5.」と回答された方
	2. 週に何度かある	
	3. 月に何度かある	
	4. 年に何度かある	
	5. ほとんどない	

項目(選択肢)		判定条件
ボランティア参加者	週4回以上	・問6-(3)『以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか』の設問で「①ボランティアのグループ」に対して、左記の選択肢(灰色部分)と回答された方
	週2~3回	
	週1回	
	月1~3回	
	年に数回	
	参加していない	

項目(選択肢)		判定条件
スポーツ関係のグループやクラブ参加者	週4回以上	・問6-(3)『以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか』の設問で「②スポーツ関係のグループやクラブ」左記の選択肢(灰色部分)と回答された方
	週2~3回	
	週1回	
	月1~3回	
	年に数回	
	参加していない	

項目(選択肢)		判定条件
趣味関係のグループ参加者	週4回以上	・問6-(3)『以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか』の設問で「③趣味関係のグループ」において、左記の選択肢(灰色部分)と回答された方
	週2～3回	
	週1回	
	月1～3回	
	年に数回	
	参加していない	

項目(選択肢)		判定条件
学習・教養サークル参加者	週4回以上	・問6-(3)『以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか』の設問で「④学習・教養サークル」において、左記の選択肢(灰色部分)と回答された方
	週2～3回	
	週1回	
	月1～3回	
	年に数回	
	参加していない	

項目(選択肢)		判定条件
介護予防のための通いの場参加者	週4回以上	・問6-(3)『以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか』の設問で「⑤介護予防のための通いの場」において、左記の選択肢(灰色部分)と回答された方
	週2～3回	
	週1回	
	月1～3回	
	年に数回	
	参加していない	

項目(選択肢)		判定条件
老人クラブ参加者	週4回以上	・問6-(3)『以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか』の設問で「⑥老人クラブ」において、左記の選択肢(灰色部分)と回答された方
	週2～3回	
	週1回	
	月1～3回	
	年に数回	
	参加していない	

項目(選択肢)		判定条件
町内会・自治会参加者	週4回以上	・問6-(3)『以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか』の設問で「⑦町内会・自治会」において、左記の選択肢(灰色部分)と回答された方
	週2～3回	
	週1回	
	月1～3回	
	年に数回	
	参加していない	

項目(選択肢)		判定条件
収入のある仕事従事者	週4回以上	・問6-(3)『以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか』の設問で「⑧収入のある仕事」において、左記の選択肢(灰色部分)と回答された方
	週2~3回	
	週1回	
	月1~3回	
	年に数回	
	参加していない	

項目(選択肢)		判定条件
主観的健康感が良い者	1. とてもよい	・問8-(1)『現在のあなたの健康状態はいかがですか』の設問で、左記の選択肢「1.」「2.」と回答された方
	2. まあよい	
	3. あまりよくない	
	4. よくない	

項目(選択肢)		判定条件
幸福感がある者		・問8-(2)『あなたは、現在どの程度幸せですか』の設問で、「0点」~「10点」うち「8点」「9点」「10点」と回答された方

2 認知症高齢者日常生活自立度の指標

○認知症高齢者日常生活自立度とは、高齢者の方の認知症の程度を日常生活の自立度から簡易的に判断する評価方法で、下表のとおり9段階のランクからなります。要介護認定では認定調査や主治医意見書にてこの指標が用いられており、審査判定の際の参考として利用されています。

ランク	判断基準	見られる症状・行動の例	判断にあたっての留意事項
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。		在宅生活が基本であり、一人暮らしも可能である。相談、指導等を実施することにより、症状の改善や進行の阻止を図る。
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		在宅生活が基本であるが、一人暮らしは困難な場合もあるので、日中の居宅サービスを利用することにより、在宅生活の支援と症状の改善及び進行の阻止を図る。
II a	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが見られ、介護を必要とする。		日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがランクIIより重度となり、介護が必要となる状態である。「ときどき」とはどれくらいかの頻度を指すかについては、症状・行動の種類等により異なるので一概には決められないが、一時も目を離せない状態ではない。
III a	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便、排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声、奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	在宅生活が基本であるが、一人暮らしは困難であるので、夜間の利用も含めた居宅サービスを利用しこれらのサービスを組み合わせることによる在宅での対応を図る。
III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる。	ランクIIIaに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	常に目を離すことができない状態である。症状・行動はランクと同じであるが、頻度の違いにより区分される。家族の介護力等の在宅基盤の強弱により居宅サービスを利用しながら在宅生活を続けるか、または特別養護老人ホーム・老人保健施設等の施設サービスを利用するかを選択する。施設サービスを選択する場合には、施設の特徴を踏まえた選択を行う。
M	著しい精神症状や周辺症状あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	ランクI～IVと制定されていた高齢者が、精神病院や認知症専門棟を有する老人保健施設等での治療が必要となったり、重篤な身体疾患が見られ老人病院等での治療が必要となった状態である。専門医療機関を受診するよう勧める必要がある。

資料：厚生労働省 老発第 0403003 号「「痴呆性老人の日常生活自立度判定基準」の活用について」の一部改正について（平成 18 年 4 月 3 日）

瀬戸市
高齢者総合計画実態調査結果報告書

発行日 令和2年3月

発行元 瀬戸市役所 健康福祉部 高齢者福祉課

住 所 〒489-8701

愛知県瀬戸市追分町 64 番地の1

TEL 0561-88-2621 FAX 0561-88-2633

<http://www.ctiy.seto.aichi.jp>

第5章 介護人材実態調査結果 155

1 介護職員の状況について.....	155
(1) 回答者のサービス種別.....	155
(2) 介護職員の属性.....	156
(3) 1週間の勤務時間.....	157
(4) 過去1年間の介護職員の職場の変化.....	157
(5) サービス提供時間の内容別内訳.....	158

第6章 介護休業制度等実態調査結果 160

1 企業の業種・従業員数について.....	160
2 企業における介護休業制度等の状況.....	161
(1) 介護休業制度・介護休暇制度の利用状況.....	161
(2) 企業での対策や制度について.....	162
(3) 介護休業制度等を導入するにあたっての困りごと.....	163

資料編 164

1 電算処理の判定条件等.....	164
2 認知症高齢者日常生活自立度の指標.....	172